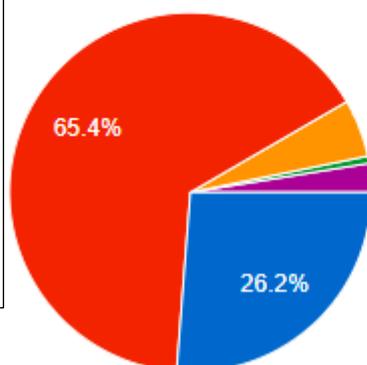
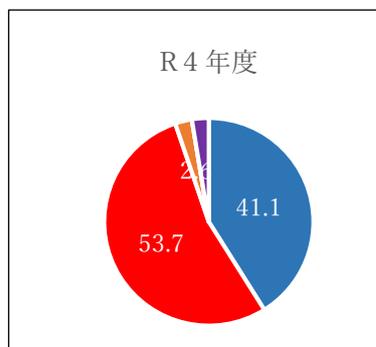


令和5年度 11月学校評価アンケート結果 (保護者)

1 お子さんは、友達と協力し励まし合う中で、自分も友達も大切にしようとする、思いやりのある心が育っている。

309件の回答

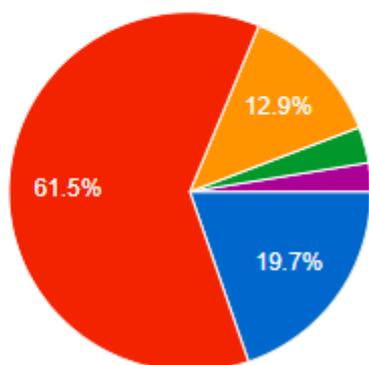
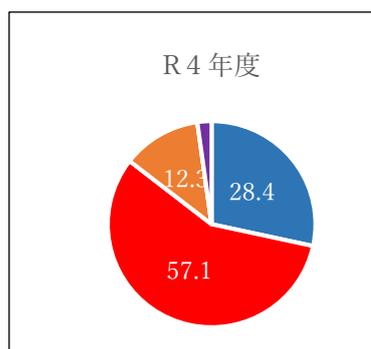


- ①とてもそう思う
- ②そう思う
- ③あまり思わない
- ④思わない
- ⑤分からない

①②を合わせれば全体の90%を占め、思いやり的心が育っていると捉えられるが、前年度と比べ、①「とてもそう思う」が減り、③や⑤が増えたのは、とても残念なことである。なかよし活動などで、高学年が低学年に優しく声をかけたりお世話したりする姿を見ても、児童の心の中には「やさしさ」は育っていると感じる。自信をもって「思いやりがある」と言えるようにするためには、同年代の友達とのよりよい交流の機会を多く設け、相手の立場に立って考えることができるよう、お互いに気持ちの良い付き合い方を経験させていく必要があると考える。

2 お子さんは、自分なりに考えてよりよい方法を模索したり、これまで学んできた成果を進んで表現したりするなど、主体的に粘り強く学習に取り組もうとする力が育っている。

309件の回答

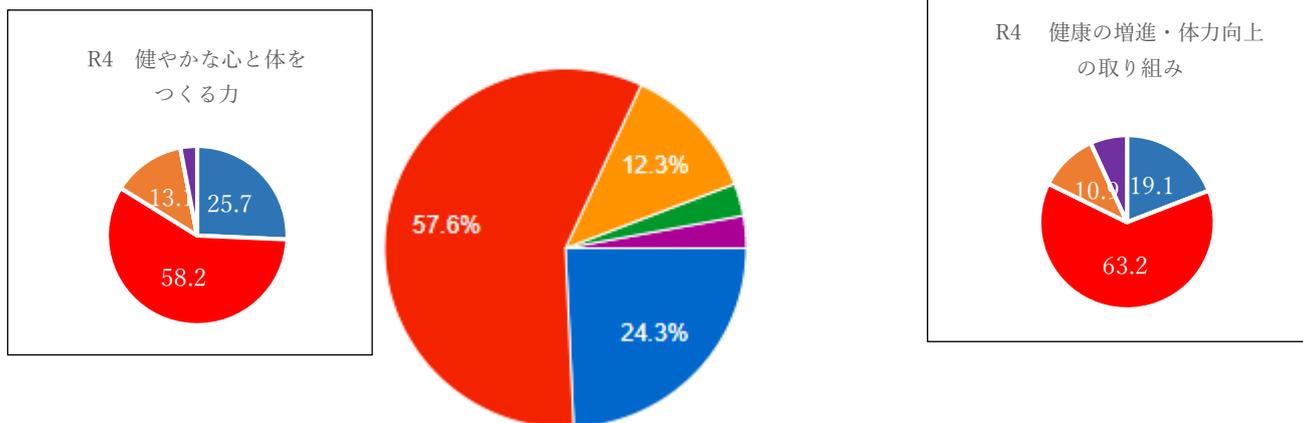


- ①とてもそう思う
- ②そう思う
- ③あまり思わない
- ④思わない
- ⑤分からない

昨年度に比べ、①と②を合わせて割合が減っているのは、「自分なりに考えてよりよい方法を模索」という文言を今年度から使用することで、より具体的になったためと思われる。しかしながら、③「あまり思わない」が12.3%から12.9%に、また④「思わない」が増えていることから、児童の主体性（進んで模索、表現・粘り強さ）を育てるために、学校は、引き続き授業や行事等に絡めた手立てを検討し、取り組み続ける必要があるといえる。

3 お子さんは、健康や運動に対する関心を深め、健やかな心と体をつくろうとする力が育っている。

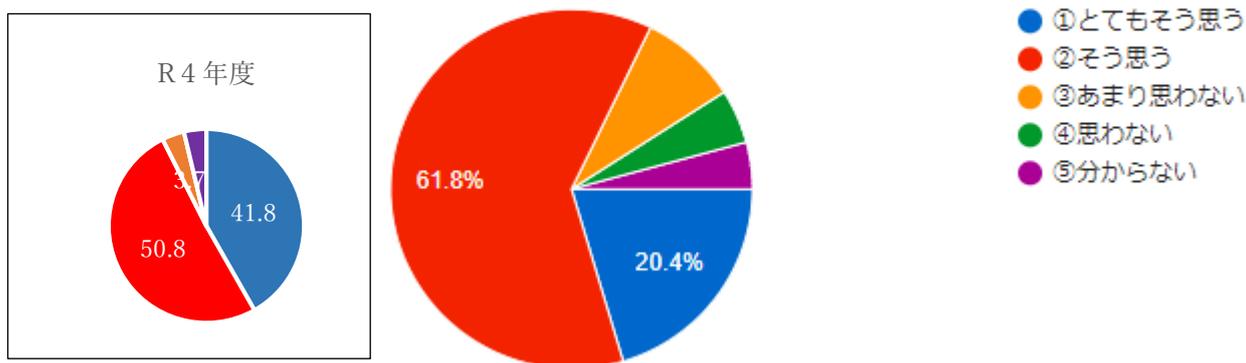
309 件の回答



昨年度は2項目に分け、学校の取組として回答をしていただき、今年度は児童の力として回答をしていただいた。今年度は、児童の力として80%は達成していると捉えられるが、③「あまり思わない」が12%も占めているのは課題である。また、学校保健目標として「けがをふせごう」について取り組み、月一回の振り返りで児童の意識は育っているが、いつでも気にしてできるというのは難しい。意識を高めるための全校的な手立てが必要であろう。また、今年度は「短縄跳び」を設定して継続した体力づくりを目指していたが、授業の中での取組は難しく継続には至らなかった。児童に浸透しやすい、継続してできる体力づくりを検討していく必要があるといえる。

4 学校は、家庭、PTAや地域との連携を深め、その力を学校教育に活用している。

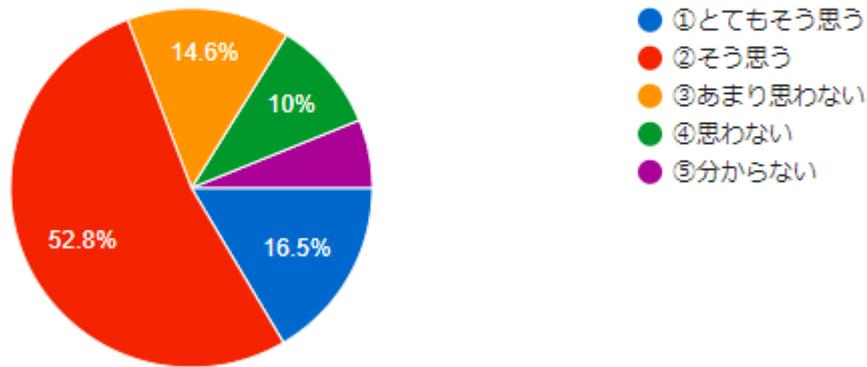
309 件の回答



今年度は「創立150周年」でもあり、様々な場面でPTAや地域の方々のご協力をいただいた。その成果が、80%に至っていると思われる。しかしながら、③「あまり思わない」④「思わない」が増えているのは、地域というよりも、学校と家庭との連携が充分満足できる状況には至ってないと考えられる。児童の健やかな成長のためには、家庭との連携は欠かせない。今後も、様々な教育活動に対して、家庭の協力を呼びかけつつ、学校は、家庭とのよりよい連携方法について検討が必要である。

5 学校は、児童が安心して生活・学習できる教育環境を整えている。

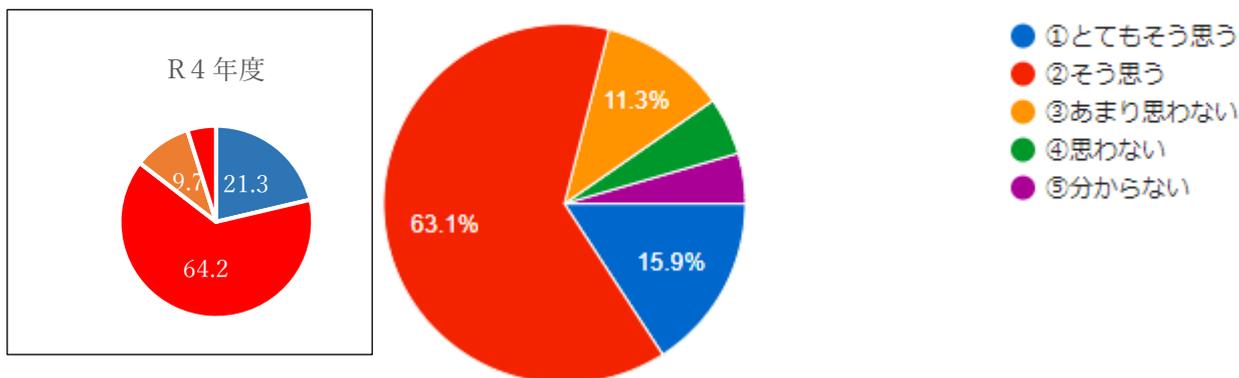
309 件の回答



① ②を合わせると 69.3%となり、過半数を超えている。しかしながら、③「あまり思わない」④「思わない」が全体の 1/4 程度を締めているのは課題である。今年度は、5年生で臨時保護者会を2度開き、保護者の方々の参観や支援等のご協力をお願いしていることから、児童が安心して生活・学習できる環境が整っているとは言い難い。今後も、児童の安全安心を守るためのよりよい手段をさらに模索し続けながら、学校側は、教職員一丸となり最善を尽くすよう努力していく。

6 学校は、学校便りやHPを通して児童の様子や行事について分かりやすく伝えている。

309 件の回答

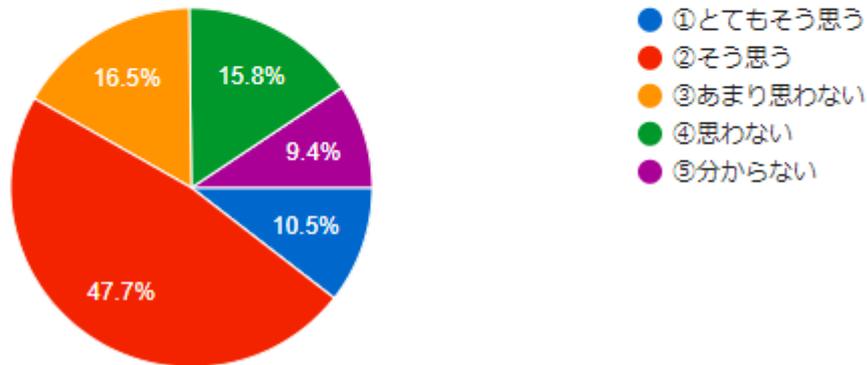


① ②を合わせると 80%となり、大方達成していると言えよう。しかしながら、昨年度よりも、③「あまり思わない」④「思わない」⑤「分からない」が増えていることから、HPで児童の活動の様子や行事についてお知らせをしているものの、不十分と感じていることがうかがえる。自由記述から、5年生の対応など、学校での出来事や児童の様子について不安や戸惑いを感じている方がいることから、学校は、個人情報保護や人権の観点からすべてを伝えることはできなくても、誠実に児童の様子や学校の取組をお伝えできるようこれからも努力する必要がある。

7【2年生以上のみ】

お子さんは、与えられた宿題でなく「自主家庭学習」に取り組むことで、「自分で考えて自分で行う力」がついてきた。

266 件の回答



58.2%の方は、成果として捉えている。「自主家庭学習」は今年度より取り組んだ活動であり、低学年から段階を追って「自分で考え自分で行う力」をつけていきたいと考えているが、そのシステムが成り立つには数年を要する。そのため、慣れない経験で、児童もサポートをする家庭も戸惑ったことと思われる。そこで、家庭とその意義やねらいを再確認することや児童が取り組みやすいよう内容についての検討をすることが必要である。内容については、課題決定に悩む児童のために例をもっと分かりやすくあげたり、「積み重ねで基礎力を定着させる」ために、ドリルを使った漢字や計算、日記などの選択ができるようにしたり、担任がその子に合ったアドバイスをしたり、他の家庭がどのような課題に取り組んでいるか情報を伝えたりもできるであろう。また、「自主家庭学習」はあくまでも宿題の一貫なので、きちんと提出させることとし、その努力や成果を担任が賞賛し、励ましていくことは欠かせない。いずれにしても、本校の児童にとって必要な「自分で考え自分で行う力」を伸ばすために、来年度の実施に向けて、家庭の理解と協力を得ながら、よりよい方法を探っていく必要がある。そして、決まった方向性や改善した方法を、年度末の学校報告会、次年度の学年保護者会で説明していくようにする。

「自主家庭学習」についての様々なご意見ありがとうございました。方向性や改善した方法を教職員で話し合い、年度末の学校報告会、次年度の学年保護者会でご説明させていただきます。